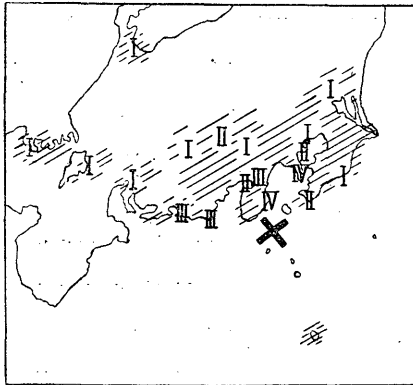


昭和 11 年 12 月 27 日 伊豆—新島強震地域踏査報告

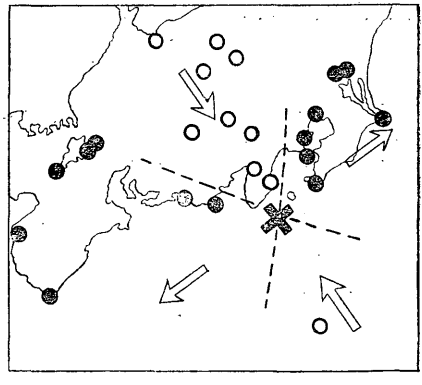
本 多 弘 吉

昭和 11 年 12 月 27 日 9 時 14 分頃、伊豆—新島附近にかなり大規模な地震が起り、關東地方の大部分から中部地方の南半部及び近畿地方の一部等で震動を人體に感じた。特に震央に近い新島及び式根島では被害甚だしく、死者 3、

第 1 圖 震度分布圖



第 2 圖 P 波初動分布圖



○ 疎波

● 密波

負傷者 70、家屋全潰 35、半潰 473 等

を生じ、其の他崖崩れ、道路の破損等夥しく損害 80 餘萬圓と稱せられる。震央は東經  $139^{\circ}16'$ 、北緯  $34^{\circ}25'$ 、新島の北西約 5 料の沖合に當り、震源は極めて浅く精々十數料以内と稱せられる。地震の規模としては昭和 10 年 7 月 11 日の静岡地震或は昭和 11 年 2 月 21 日の河内大和地震と略々同程度のものであつた。

此の地震の P 波初動分布は第 2 圖に示す様に大體 4 象限に分れる型式に屬するもので、震央に對して北東及び南西の 2 象限では初動は所謂密波、北西及び南東の 2 象限では疎波である。従つて所謂起震主壓力は略々北西—南東に向いてゐる。之が昭和 5 年春の伊東地震及び同年 11 月の北伊豆烈震等に於ける主壓力の方向と同一傾向を示してゐることは注目に値する。

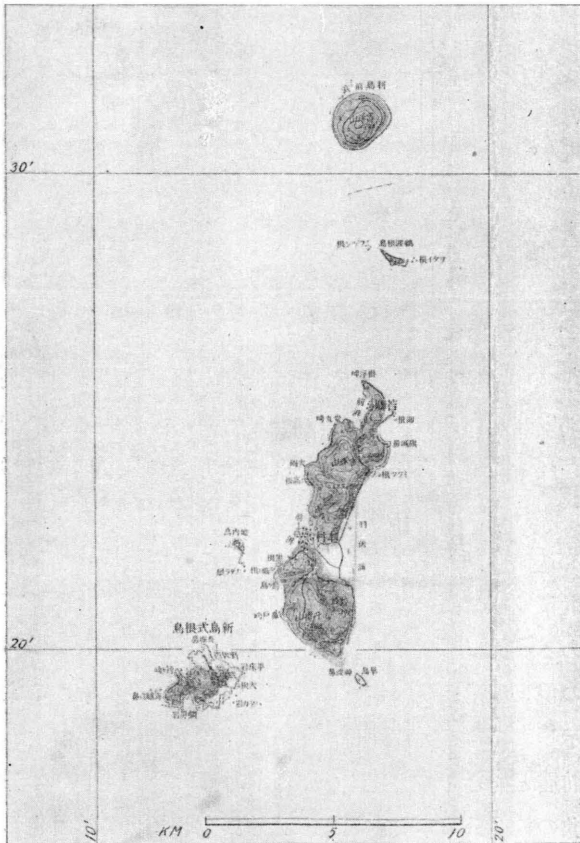
本震に先立つて數回の前震と稱せらるべきものがあり、特に 27 日 9 時 12 分頃かなりの地震があり、其の約 2 分後本震が起つた。餘震もかなり多數發生し

た。そのうち 29 日 2 時 20 分頃のものはかなり規模が大きく特に式根島では比較的震度が強く本震で破壊しかゝつてゐた建造物等で更に破壊されたものがあつた。此等の餘震は次第に順調の経過をたどつて減衰し月末には殆ど鎮靜した。

筆者は 27 日出張を命ぜられ、28 日新島着、30 日迄踏査に従事した。次に踏査結果の概要を記す。

**被害を生じた區域** 今回の強震により顯著な被害を生じたのは震央に最も近い新島及び式根島である、實地踏査の結果からは同島に於ける震度は強震或はそれより稍強い程度と推定される。大島や神津島では弱震程度と推定され被害はなかつた。新島と大島の中間の利島では人命には損傷なく諸所の崖が崩れ又

第 3 圖



水溜が破損して飲料水が缺乏した由であるが通信交通が極めて不便な爲詳細は知り難い。

**新島及び式根島に於ける被害** 新島は本村と若郷村とに分れてゐる。本村の全戸数は 728 戸、人口は 3918 名、若郷村は 66 戸、476 名である（昭和 10 年末調）。式根島は行政上は本村に屬するが便宜上本報告では式根島を本村と分けて記すことにする。

死者 3 名。本村 1 名（炭焼中崖崩れの爲埋没）、若郷村 1 名（海岸で漁中崖崩れの爲

埋没), 式根島 1 名 (海岸で漁中, 落下した岩石に打たれて即死)

負傷者 70 名。本村 50 名 (内 3 名重傷), 若郷村 20 名

全潰家屋 35 戸。(本村 14, 若郷村 20, 式根島 1)

半潰家屋 473 戸。(本村 430, 若郷村 40, 式根島 3)

損害見積額は本村では 70 萬圓, 若郷村 6 萬圓, 式根島 1 萬圓と云はれる。

尙幸にして何處でも火災が起らなかつたのは何よりであつた。

**地震活動の経過** 26 日頃から數回微震を感じ更に 27 日午前 2 時頃かなり強い地震があり警戒してゐる人もある中, 遂に午前 9 時 15 分に至つて強震が起つた。27 日中は餘震頻々として襲來した。餘震は何れも砲聲の様な音響と共に上下動を主とした極めて急激な震動である。之等のことからしても餘震の震源は新島に極めて近いことが推定される。28 日朝頃からは回数が頓に減少し晝間は殆んど感じなかつた。29 日午前 2 時 22 分頃新島及式根島で弱震乃至中震程度に感ずる地震が起り其の後暫く頻繁であつたが再び次第に鎮靜した。

**家屋の被害** 家屋の被害を述べるに先立ち, 新島及び式根島等に特有の構造の家屋のあるのを知る必要がある。新島に於ては其の特産物として抗火石と稱せられる岩石を産する。之は極めて軟かく且つ軽いことは水に浮ぶ程で建築用として多量に移出される。新島, 式根島等では純粹の木造家屋もあるが大多數は壁・屋根等に抗火石を利用してゐる。特に物置納屋等では全然木材を使用しないで矩形の抗火石を積み重ね, 其の間は漆喰で固めたものもある。今回の強震に際しては純粹の木造建築物特に平家トタン葺きの家屋は殆んど全く被害を受けてゐない。之に反して抗火石を利用した部分は剝落したり, 龜裂を生じたりして大破したものも多く, 家屋の被害の大部分は抗火石を利用した建築物に多いのは特に注意を要する。

本村の小學校 (木造二階建瓦葺) は屋根瓦が所々づり落ち柱の折損したものもある。特に南側校舎は北方に稍傾斜した。村役場の屋根瓦も所々づり落ちた。若郷村の小學校でも略同程度の被害を受けた。式根島の小學校は殆んど破損しなかつた。

**崖崩れ, 地割れ等** 此の附近の島嶼の通性として絶壁が多い爲, 島内諸所特に海岸に面して大規模の崖崩れが至る所に起つた。特に新島の若郷寄りの海岸

に顯著なものが多い。本村と若郷村とをつなぐ道路は崖崩れの爲全く不通となつた。死者は總て崖崩れに因るものである。若郷村では道路が宅地より高くなつて稍堤防狀をなしてゐる爲か、所々道路に沿ふ龜裂を生じた。式根島の海岸に湧出するヂナク温泉は崖崩れの爲埋められた。

**物體の轉倒移動等** 墓石、石燈籠等は大分倒れたものが多い。方向は餘り一定しないが本村では北向きに倒れたものが幾分目立つ様である。式根島の宮澤百松氏方の納屋は北東方へ 10 程余移動した。本村長榮寺の石燈籠で時針向きに 40 度餘廻轉したものがあつた。

**地下水の變化** 本村及び若郷村の井戸水は地震後稍白く濁つたものが多い。式根島の温泉には變化がなかつた。

**津浪** 強震と共に津浪を警戒して海面を注視した人も多かつたが何等の異狀も認められなかつた由である。

尙今回の踏査に際し多大の便宜を御與へ下さつた白戸東京府學務部長、葛西社會課長、市川大島支廳長、新島出張所長、本村村長、若郷村村長等多數の方々の御厚意に對し厚く御禮申上げる。

(昭和 11 年 12 月 31 日記)